

令和5年度 調布市防災教育の日 実施結果報告書(概要版)

令和5年8月
教育部教育総務課

1 取組の概要

【報告書】参照
P4~12

- (1) 実施日 令和5年4月22日(土) 午前8時45分から午後0時15分頃まで
- (2) 実施場所 市立全小・中学校(28校), 大町スポーツ施設(市統一テーマ訓練のみ)
- (3) 当日のタイムスケジュール(※詳細は各学校で異なる。)

時間	学校教育活動(例)	市統一テーマ訓練 「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」
8:45	1校時 防災啓発講話	市職員・地域の方集合 一日の流れの確認 等
9:15		
9:30		
9:45	2校時 「命」の授業	
10:15		
10:45	3校時 安全指導	避難所開設訓練
11:00	避難訓練・引取訓練 ・校庭への避難 ・講評(校長) ・保護者による引取	
11:20	下校	
12:00	片付け、振返り、避難所運営本部(教育会館)への終了連絡	
12:15	解散	

▼校庭への避難訓練(上ノ原小)



▼地域との協働による訓練(八雲台小)



▼まちかど防災訓練車による消火訓練(飛田給小)



▼地域との協働による訓練(第三小)



- (4) 感染症対策について
学校教育活動(「命」の授業・防災啓発講話)は、保護者・地域の方への公開を中止

(5) 参加者数(人)

参加者区分	令和5年度	令和4年度	令和4年度比
学校(教職員、児童・生徒)	17,097	16,967	130
保護者	12,002	0	12,002
地域	319	289	30
市職員(避難所担当職員・初動要員等)	510	510	0
消防・警察職員(消防団員を含む。)	31	45	▲ 14
合計	29,959	17,811	12,148

実施校	令和5年度	実施日
東京都立調布北高等学校	570	4月18日
東京都立調布南高等学校	751	4月19日
東京都立神代高等学校	906	5月17日
明治大学付属明治高等学校・明治中学校	1,435	4月25日
晃華学園中学校高等学校	931	5月9日
桐朋女子中学校・高等学校	1,750	5月31日
ドルトン東京学園中等部・高等部	590	4月14日
計	6,933	

◎上記の都立高校・私立学校の参加者数は、左表に含まれていない。また、都立・私立学校における取組は、防災教育の日(4月の第4土曜日)に限らず、周辺の日程を含めたうえで実施を依頼

【報告書】参照
P36~63

2 学校教育活動の取組

(1) 「命」の授業・防災啓発講話

- ・児童・生徒に命の尊さや「自らの命は自らが守る」意識を高める「命」の授業を実施
- ・調布消防署員・国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所職員による、地震・水害をテーマにした防災啓発講話(録画)を実施
- ・東日本大震災の被災地等の講師による、実体験に基づく防災啓発講話を実施

(2) 避難訓練・引取訓練

- ・全学年が校庭へ避難する避難訓練を実施した。また校庭への整列後、学校長・副校長から避難訓練についての講評を実施
- ・令和元年度以来4年ぶりに保護者による引取訓練を実施

▼VR防災体験車による被災疑似体験(杉森小)



▼国土交通省職員による水害に関する講話(録画)(第五中)



▼校庭への避難訓練(多摩川小)



3 市統一テーマ訓練の実施(感染症対策を踏まえた避難所開設訓練)

【報告書】参照
P16~19

(1) 訓練概要

- ・避難所開設時に各学校避難所に参集する市職員と地区協議会等の地域の方との協働により、令和元年台風19号における避難所開設時の課題や感染症対策を踏まえた訓練を実施

▼感染症対策を踏まえた避難スペース設置訓練



▼マンホールトイレ設置訓練



(2) 訓練内容

- ・開錠・錠錠方法確認(校門・校舎・体育館)、マンホールトイレ設置・撤去、防災備蓄倉庫確認、調布エフエム放送受信訓練、感染症考慮時における避難所利用計画を用いた図上訓練、防災行政無線受信・送信訓練、避難所開設・受付訓練、簡易トイレ体験 等

- (3) 訓練参加者数 864人(市職員510人・教員35人・地域住民319人)

4 連携・協働の取組

【報告書】参照
P7~11

(1) 調布消防署との連携

- ・参加・体験型の授業講師として、毎年の輪番校として5校に署員を派遣(杉森小、飛田給小、柏野小、第七中、第八中)
- ・地震をテーマに小学校低学年、中学年、高学年・中学生向けに分けて作成いただいた防災啓発講話(録画)を、実施希望校(12校)において視聴

(2) 国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所との連携

- ・水害をテーマに小学校低学年、中学年、高学年、中学生向けに分けて作成いただいた防災啓発講話(録画)を、実施希望校(10校)において視聴

(3) 地域との協働

- ・市立全小・中学校、大町スポーツ施設において、地区協議会等の地域の方と協働による訓練を実施

(4) NPO法人調布心身障害児・者親の会、【新規】調布市福祉作業所等連絡会との協働

- ・第二小学校において、NPO法人調布心身障害児・者親の会、調布市福祉作業所等連絡会(当日は、しごと場大好き・らぶらんど調布・アイビーキッズ布田の3団体参加)の方と協働による訓練の実施、災害時避難行動要支援者の立場からの意見を拝聴

(5) 一般財団法人調布市市民サービス公社との協働

- ・地域福祉センター(西部・金子・緑ヶ丘・下石原)において、福祉避難所開設訓練を協働で実施
- ・震災時における福祉避難所開設の流れ、福祉避難所本部の運営体制などを確認

(6) 市内都立・私立学校との連携

- ・東京都立調布北、調布南、神代の各高等学校、明治大学付属明治高等学校・明治中学校、晃華学園中学校高等学校、桐朋女子中学校・高等学校、ドルトン東京学園中等部・高等部にて、避難訓練等を実施

(7) 市内企業との連携

- ・スターツCAM株式会社の協力により、起震車及びスタッフを派遣(富士見台小)

(8) 市長部局各部との連携

- ・初動要員、避難所担当職員、学校避難所対応職員、管理職員が各小・中学校、大町スポーツ施設において市統一テーマ訓練「感染症対策を踏まえた避難所開設訓練」を実施
- ・令和5年度新規採用の職員が市統一テーマ訓練に参加し、訓練後には消防大校において地域防災に関する訓練に参加

(9) その他

- ・フードロスの観点や児童・生徒への防災教育の一環として、防災備蓄倉庫にある今年度入替予定のアルファ米を防災教育の日前後の日程において市立小・中学校の給食で提供
- ・【新規】深大寺小学校児童が、災害時を想定し、防災備蓄倉庫にある水を使用してアルファ米の調理体験を実施

5 出された意見の概要(課題)

訓練に参加した地域の方や職員から多く出された意見を抜粋

【報告書】参照
P20~34

- ・避難所の開設、受付訓練等を通じて避難所運営の課題を共有することができており、地区協議会をはじめ地域の皆様の防災意識の高さを改めて感じた。
- ・避難者の範囲は地域住民だけでなく、発災時点でその地域にいる人すべてとなる。その点も踏まえて訓練すべき。
- ・訓練は重要。忘れていたこともあるので、年1回の訓練は必要。
- ・大地震や風水害が実際に起こると、訓練していたとしても気持ちも動転してしまうので、皆で声を掛け合い協力し合うことが大事。

- ・防災備蓄倉庫内の備品が備蓄倉庫扉裏面に貼り付けられていた配置図と異なるものがあり、取り出すのに手間と時間がかかった。
- ・ブルーシートに事前に付番しているが、避難者でも分かるよう、配置番号等を、左右や舞台に分かりやすく貼るなど改善が必要。
- ・受入人数・体制、防災倉庫の備蓄量等、避難所の現状を市民と共有することが必要。
- ・その他、避難スペース、避難所受付、要配慮者への対応、避難所利用計画図、必要備品、様々な状況を想定したマニュアルの整備 等

課題等の改善に向け、地域、関係機関、庁内関係部署と協働・連携を図り、検討を進めます。